

論点

- 論点1 過去を振り返って、現在の特許制度で大きく変えないといけない部分はどこか？（そもそも特許制度で何を促せばよいのか、知財司法は適切か、新たな権利の形態は必要か）
- 論点2 国際的な特許制度の調和のために今必要なアクションとは？（産学官、また情報システムなど）
- 論点3 イノベーションを促進する企業知財戦略とは？

15の提言

オープン化、グローバル化、サイエンスリンケージ等のイノベーションのダイナミックな変化を踏まえ、「次世代知的財産権制度」実現のための改革課題として、15の提言を行う。

<新時代イノベーション踏まえた制度・運用改革>

- サイエンスリンケージ拡大を踏まえた特許の質向上のための非特許文献に関する審査能力の向上
- 基礎的研究の成果の保護を簡便に可能にするための「仮特許制度」の導入
- イノベーション促進の視点からの「適切な差止請求範囲」の明確化
- 「ライセンスオブライト」の導入による、知的財産権の積極的実施(ライセンス)の推奨
- 知財裁判審理における専門性の向上、短期的施策(専門調査官の充実等)と長期的展望(判事の専門性)
- 侵害裁判における特許の有効性判断に関し、技術専門官庁である特許庁の知見を尊重する仕組みの導入
- 特許侵害とならない研究開発の範囲に関する国際的規範の確立
- 3Dインターネットに代表される近未来のニーズに対応した知財制度の国際共同研究の開始
- 産学国際共同研究契約のあり方に関する国際的な議論の場の設置
- 次世代の特許データベースの構築(国際的標準化、裁判、引用情報等を含めた総合化、学術と特許のシームレス検索の導入)

<国際協調の枠組み>

- 仮想的な「世界特許」実現に向けた産学官の協調
- 特許審査ハイウェイ(PPH)の加速的推進とそのマルチネットワーク化
- 日中韓3カ国特許庁会合に合わせたアジア学術大会の開催

<企業と大学(組織)戦略と特許>

- ユーザコミュニティ(企業・大学)による特許の「質」の向上の取り組み活動の活性化
- パテントcommonsやパテントプールなど「コミュニティ全体の利害を考慮した協調領域」の設計と、即した特許の戦略的活用(情報分野からバイオなど他分野へも、また産学連携での設計など多様な発展)